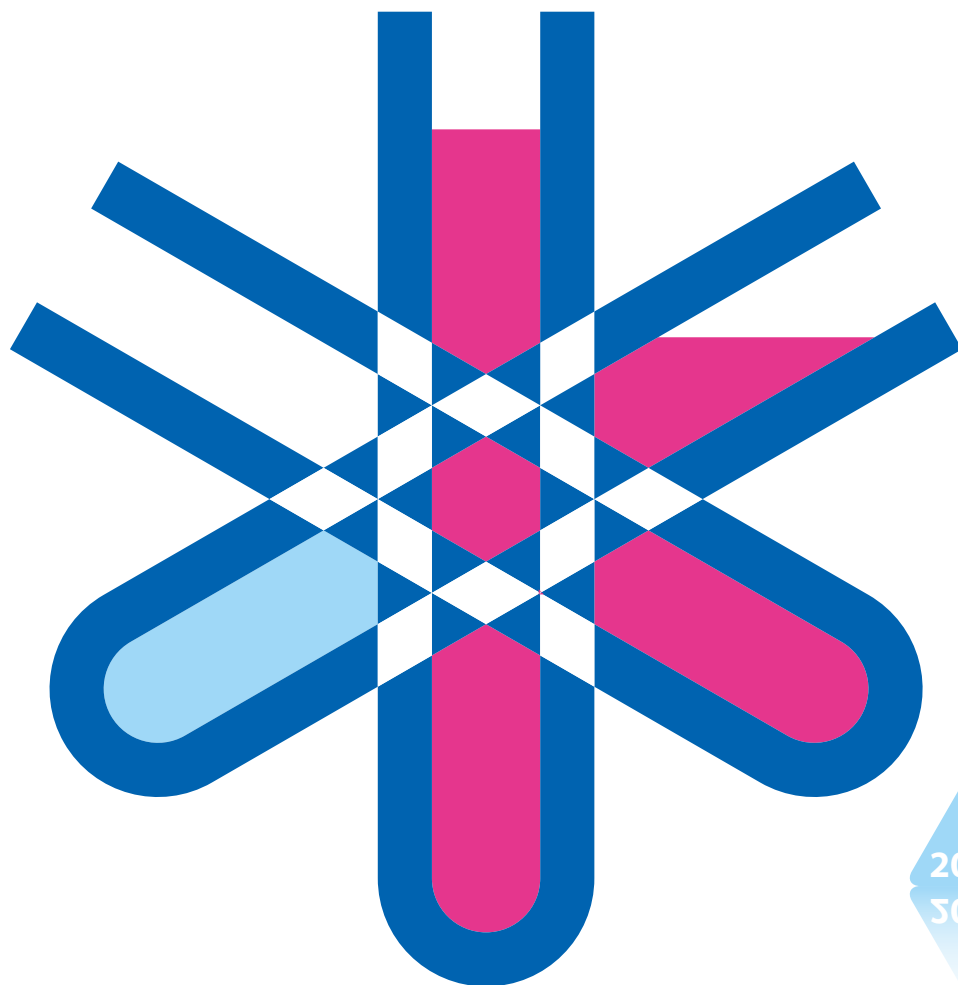


# 横査情報月報



2026  
505e

9  
6

横浜市衛生研究所

# 令和8年9月号 目次

## 【検査結果】

|                                              |   |
|----------------------------------------------|---|
| 劇症型溶血性レンサ球菌感染症検査結果(2025年) .....              | 1 |
| 急性呼吸器感染症(ARI)に関する検査状況(2025年8月～2026年7月) ..... | 3 |
| 遺伝子組換え食品の検査結果(令和8年度) .....                   | 5 |

## 【情報提供】

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 衛生研究所ウェブページ情報(令和8年8月) ..... | 6 |
|-----------------------------|---|

## 【感染症発生動向調査】

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 感染症発生動向調査報告* (令和8年8月) ..... | 7 |
|-----------------------------|---|

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」(下記URL)をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

# 劇症型溶血性レンサ球菌感染症検査結果(2025年)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、溶血性を示すA群等のレンサ球菌によって引き起こされる重篤な感染症で、診断後7日以内に届出のある五類全数届出疾患です。基礎疾患の有無にかかわらず、突然の四肢の疼痛、腫脹、発熱などで発症し、その後急激に軟部組織壊死、急性腎不全、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こしショック状態から死に至ることがあります。近年、全国的に報告数は多い状態が続いており、横浜市においても届出数の動向は全国と同様の傾向が認められています(図1)。

当所では、感染症法に基づく感染症発生動向調査事業の一環として、市内の医療機関から搬入された劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から分離された菌株についてLancefield群別及びT型別<sup>\*1</sup>等の検査を実施しています。さらに菌株を国立感染症研究所に送付し、T型別、*emm* 遺伝子による型別<sup>\*1</sup>、発赤毒素遺伝子(*spe*)の保有状況及びM1<sub>UK</sub>系統株<sup>\*2</sup>の確認を行っています。

今回は2025年1月から12月までの1年間に、市内医療機関から保健所へ届出のあった33例について、菌株の検査結果を報告します。

2025年はLancefield分類のA群が16例で最も多く、次いでB群が10例、G群が7例でした。まず、A群について、T型別の結果及びT型別不能であった9例の*emm* 遺伝子による型別結果を図2に示しました。なお、A群のT1型はいずれもM1<sub>UK</sub>系統株でした。次に、B群の血清型別結果を表1に示しました。最も多い血清型はI a型の3例でしたが、その他にも複数の血清型が認められ、様々な血清型が確認されました。一方、G群は7例全てが*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE)でした。そこでG群の*emm* 遺伝子による型別結果を表2に示しました。その結果、*stG840.0* 及び*stG6792.3* がそれぞれ2例みられたほか、様々な型が認められました。

- \*1 T型別は、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在する蛋白による血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。また、M蛋白は抗オプソニン作用を示し、病原因子として知られており、*emm* 遺伝子による型別はそのM蛋白遺伝子で型別する方法です。
- \*2 M1<sub>UK</sub>系統株は、M1型株において欧米で主要な系統となっており、発赤毒素産生量が多く伝播性も高いとされている系統の株です。(「わが国における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の疫学(2025年7月4日現在)」IASR Vol.46 p179-179:2025年9月)

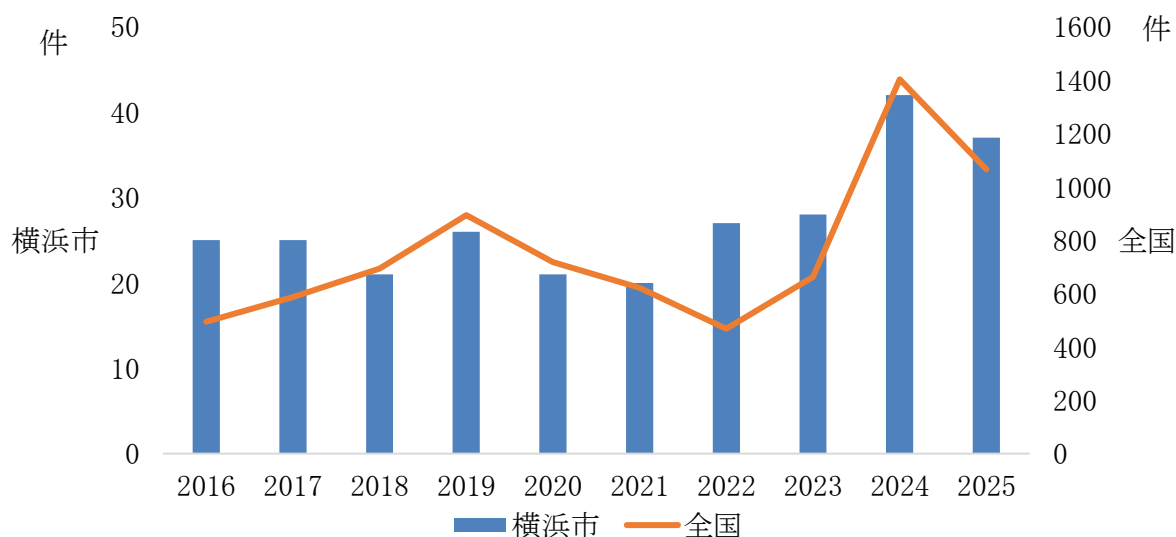


図1 劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生届出数の年次推移(全国および横浜市)

国立感染症研究所感染症発生動向調査週報(IDWR)および横浜市感染症発生動向調査 全数情報より

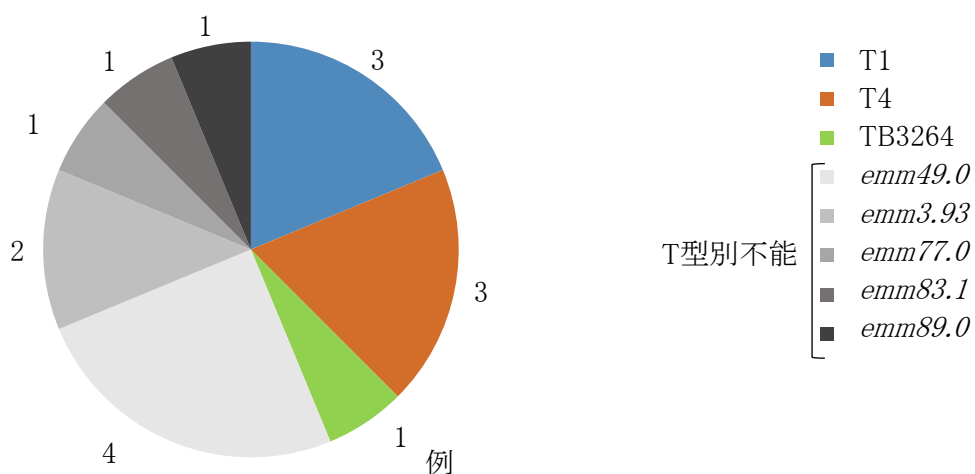


図2 劇症型溶血性レンサ球菌感染症におけるA群溶血性レンサ球菌のT型別及びemm 遺伝子の型別

表1 劇症溶血性レンサ球菌感染症におけるB群溶血性レンサ球菌の血清型別の結果

| I a | I b | II | III | IV | V | VI |
|-----|-----|----|-----|----|---|----|
| 3   | 1   | 1  | 1   | 1  | 2 | 1  |

表2 劇症溶血性レンサ球菌感染症におけるG群溶血性レンサ球菌のemm 遺伝子の型別の結果

| stG485.0 | stG840.0 | stG4222.3 | stG6792.3 | stC36.0 |
|----------|----------|-----------|-----------|---------|
| 1        | 2        | 1         | 2         | 1       |

# 急性呼吸器感染症(ARI)に関する検査状況 (2025年8月から2026年7月)

2025年4月7日から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)が感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。ARIとは、鼻炎・咽頭炎・気管支炎・肺炎など、上気道および下気道に急性の炎症を引き起こす病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱(アデノウイルス)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。今回2025年8月から2026年7月までにARIサーベイランスとして横浜市内のARI病原体定点(9医療機関)から検体が提出され、横浜市衛生研究所で検査を実施した検体の病原体検出状況をまとめました。

## 【病原体定点ウイルス調査・ARIサーベイランス】

ARIサーベイランスにおける病原体検査はインフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス、ライノウイルスまたはエンテロウイルスを実施しています。ARIサーベイランス病原体定点ウイルス調査(2025年第32週～2026年第31週)では1,380件を検査し、インフルエンザウイルス367件(26.6%)、新型コロナウイルス134件(9.7%)、RSウイルス54件(3.9%)、パラインフルエンザウイルス80件(5.8%)、ヒトメタニューモウイルス72件(5.2%)、アデノウイルス51件(3.7%)、ライノウイルス/エンテロウイルス311件(22.5%)の計1,069件(77.5%)が検出されました(図1)。

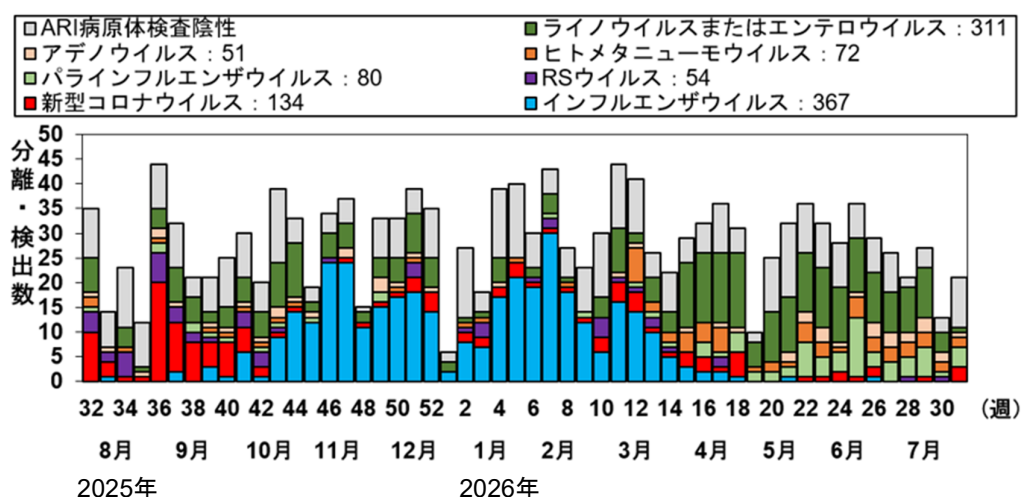


図1 ARI病原体定点におけるウイルス検出状況

## 【ARI検体のウイルス陽性率】

市内全体の感染症の流行状況を把握するために全年齢層を対象とした週ごとのインフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、RSウイルスの陽性率を図2に示しました。

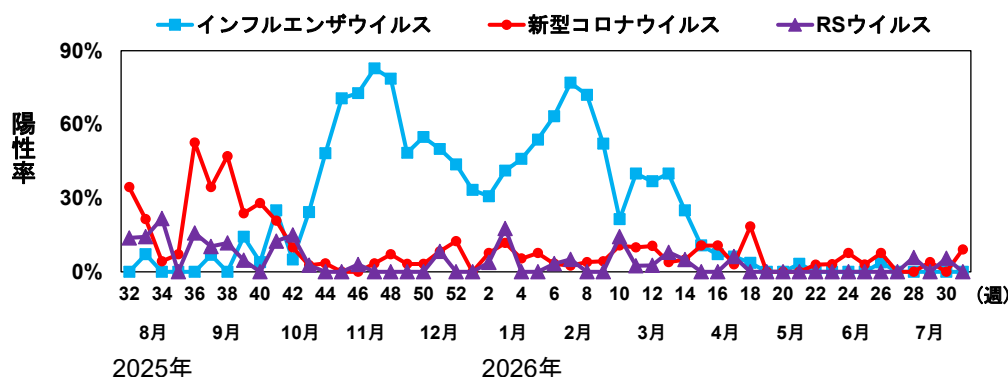


図2 インフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、RSウイルス陽性率の推移

2025年8月から9月まで新型コロナウイルスは毎週検出され、第36週には陽性率50%を超えました。一方で、2025年10月以降インフルエンザウイルスの陽性率は上昇し、2026年4月まで継続して検出されました。

#### 【年齢層別ウイルス検出数及び陽性率】

4つの年齢層（1歳未満、1歳以上6歳未満、6歳以上20歳未満、20歳以上）に分類して各ウイルスの検出数を示しました(図3)。

検出数の多いウイルスについてさらに詳しく示しました(図4)。

インフルエンザウイルス、ライノウイルスまたはエンテロウイルス、新型コロナウイルスが多く検出されました。特にインフルエンザウイルスは1歳以上6歳未満の年齢層で50%を超える検出率が5か月継続しました。調査期間中、ライノウイルスまたはエンテロウイルスは、継続して検出されました。

6歳以上20歳未満の年齢層では10月に、1歳以上6歳未満及び20歳以上の年齢層では11月にインフルエンザウイルスの陽性率が上昇しました。20歳以上の年齢層では8月から9月まで新型コロナウイルスの検出が多い状況でした。1歳以上6歳未満、6歳以上20歳未満の年齢層では2026年4月以降ライノウイルスまたはエンテロウイルスの陽性率が増加しました。

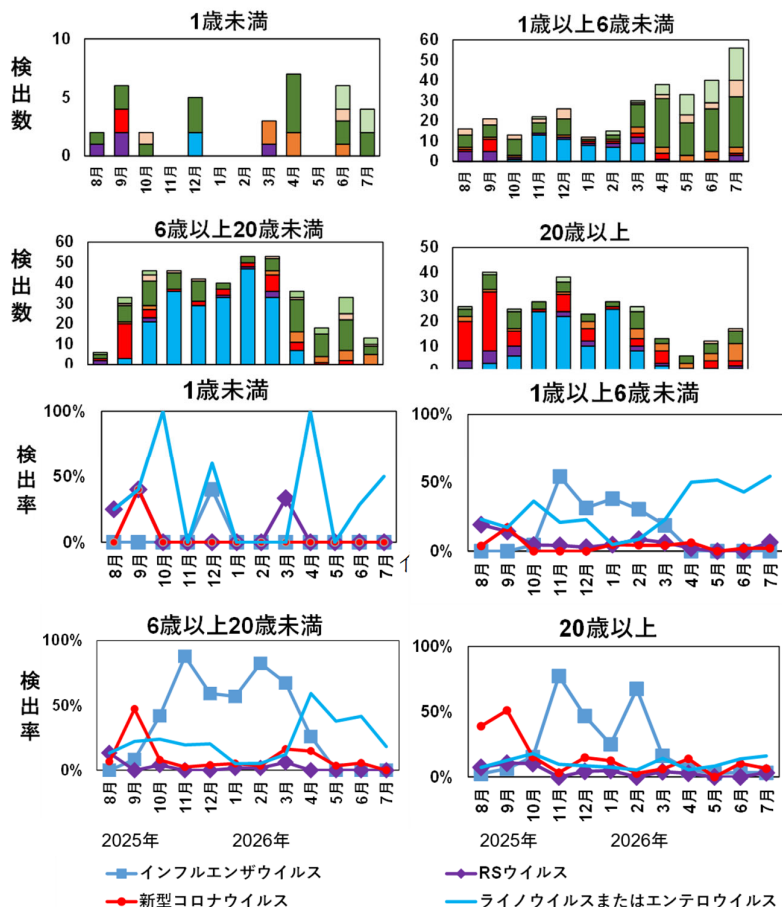


図4 年齢層別ウイルス陽性率(%)の推移

注1 搬入週ではなく検体採取週で集計しています。

注2 集計時点における検出数であるため、今後修正される場合があります。

注3 1つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上しています。

【 検査研究課 微生物(ウイルス医動物)担当 】

# 遺伝子組換え食品の検査結果（令和8年度）

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売等が可能になります。

横浜市では平成13年度から、安全性が未承認の遺伝子組換え食品が市内に流通していないか、また、適正な表示が行われているかを検査し確認しています。

今回は、令和8年6月に、医療局食品専門監視班が収去した「遺伝子組換え」の表示がない食品20検体の検査結果を報告します。

## 1 遺伝子組換えトウモロコシの定性検査

トウモロコシ加工品10検体について、安全性未承認の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)<sup>\*1</sup>の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体からも検出されず、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

| 品名         | 原産国          | 検体数 | 検出数 | 検知不能数 |
|------------|--------------|-----|-----|-------|
| コーンスナック菓子  | 日本(4)、ペルー(1) | 5   | 0   | 0     |
| ホールコーン     | タイ(3)、日本(1)  | 4   | 0   | 0     |
| コーンスープ(粉末) | 日本           | 1   | 0   | 0     |
| 計          |              | 10  | 0   | 0     |

<sup>\*1</sup> 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

## 2 遺伝子組換えコメの定性検査

コメ加工品10検体について、安全性未承認の遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI)<sup>\*2</sup>の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体からも検出されず、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Bt、NNBt、CpTI)の検査結果

| 品名           | 原産国            | 検体数 | 検出数 | 検知不能数 |
|--------------|----------------|-----|-----|-------|
| 餅、米粉         | 日本             | 5   | 0   | 0     |
| 米菓           | 日本             | 3   | 0   | 0     |
| 穀類加工品(ビーフン等) | タイ(1)、マレーシア(1) | 2   | 0   | 0     |
| 計            |                | 10  | 0   | 0     |

<sup>\*2</sup> いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

【 検査研究課 理化学(添加物含有物)担当 】

# 衛生研究所ウェブページ情報（令和8年8月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイト統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和8年8月の追加・更新記事について報告します。

## 1 追加・更新記事

令和8年8月に追加・更新した主な記事は、4件でした。

| 掲載月日  | 内容                          |
|-------|-----------------------------|
| 8月12日 | 蚊媒介感染症のウイルス検査結果(2026年8月12日) |
| 8月14日 | 感染症に気をつけよう 8月号              |
| 8月19日 | インフルエンザ流行情報                 |
| 8月26日 | 蚊媒介感染症のウイルス検査結果(2026年8月26日) |

## 2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/rinji.html>

ソーシャルメディア（インスタグラム）

[https://www.instagram.com/eiken\\_yokohama\\_official](https://www.instagram.com/eiken_yokohama_official)

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年8月)

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症が幅広い年齢層で多く報告されています。
- インフルエンザの患者報告数が増加し、例年より1か月半程度早い流行期入りとなっています。
- 梅毒をはじめとした性感染症の報告が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2026年7月20日～2026年8月23日に報告された全数把握疾患>

|                    |     |                       |     |
|--------------------|-----|-----------------------|-----|
| 細菌性赤痢              | 1件  | 急性脳炎                  | 1件  |
| 腸管出血性大腸菌感染症        | 23件 | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症        | 2件  |
| E型肝炎               | 2件  | 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む) | 4件  |
| A型肝炎               | 3件  | 侵襲性インフルエンザ菌感染症        | 2件  |
| エムボックス             | 2件  | 侵襲性髄膜炎菌感染症            | 1件  |
| デング熱               | 1件  | 侵襲性肺炎球菌感染症            | 4件  |
| レジオネラ症             | 6件  | 水痘(入院例に限る)            | 2件  |
| アメーバ赤痢             | 7件  | 梅毒                    | 28件 |
| ウイルス性肝炎            | 2件  | 百日咳                   | 12件 |
| カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 | 5件  |                       |     |

1. **細菌性赤痢**:30 歳代、病型は sonnei(D 群)、感染経路は経口感染です。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10 歳未満～80 歳代で、O 血清群は O157 が 13 件、O26 が 2 件、O111 が 2 件、O103 が3件、O146 と Og150 がそれぞれ 1 件、不明が 2 件です。無症状病原体保有者は 11 件です。感染経路等は経口感染と推定される報告が 7 件、接触感染と推定される報告が 1 件、不明が 15 件です。
3. **E 型肝炎**:60 歳代と 70 歳代で、感染経路は経口感染と推定される報告が1件、不明が1件です。
4. **A 型肝炎**:20 歳代～50 歳代で、感染経路等は経口感染と推定される報告が 3 件、そのうちの1件は性的接触もあります。3 件ともワクチン接種歴はありません。
5. **エムボックス**:20 歳代と 30 歳代で、感染経路等はどちらも接触感染と推定される報告です。
6. **デング熱**:20 歳代、病型はデング熱です。感染経路等は蚊からの感染と推定されます。
7. **レジオネラ症**:40 歳代～90 歳代で、病型は肺炎型が 5 件、ポンティアック熱型が1件です。感染経路等は水系感染と推定される報告が 4 件、不明が 2 件です。
8. **アメーバ赤痢**:20 歳代～70 歳代で、感染経路等は経口感染と推定される報告が 6 件、不明が 1 件です。
9. **ウイルス性肝炎**:20 歳代と 30 歳代で、どちらも病型は B 型、感染経路等は不明、ワクチン接種歴も不明です。
10. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70 歳代～80 歳代で、感染経路等はいずれも推定ですが、医療器具関連感染1件、院内感染1件、その他の報告が 1 件、不明が 2 件です。
11. **急性脳炎**:70 歳代で病原体は不明です。感染経路等は接触感染と推定されます。
12. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:50 歳代と 70 歳代で、血清型は A 群と G 群、感染経路等は 2 件とも不明です。
13. **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:30 歳代～50 歳代で、病型は AIDS が 2 件、その他が 1 件、無症状病原体保有者が 1 件で、感染経路等は性的接触(同性間)が 3 件、性的接触(詳細不明)が 1 件です。
14. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70 歳代と 90 歳代で、感染経路等はいずれも推定ですが、飛沫・飛沫核感染が1件、接触感染が1件です。ワクチン接種歴は無しが1件、不明が1件です。
15. **侵襲性髄膜炎菌感染症**:60 歳代で、感染経路等は不明、ワクチン接種歴も不明です。
16. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10 歳未満～80 歳代(ワクチン接種歴、無 2 件、不明 2 件)で、感染経路等は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が 2 件、そのうち 1 件は接触感染もあり、不明が 2 件です。
17. **水痘(入院例に限る)**:70 歳代と 80 歳代で、2 件とも臨床診断例で、感染経路等は不明です。
18. **梅毒**:10 歳未満～70 歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期 5 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 15 件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者が 7 件です。感染経路等は性的接触による感染と推定される報告が 21 件(異性間 14 件、同性間 4 件、詳細不明 3 件)、不明の報告が 7 件です。
19. **百日咳**:10 歳未満～60 歳代(ワクチン接種歴 4 回 1 件、3 回 1 件、不明 10 件)で、感染経路等はすべて不明です。

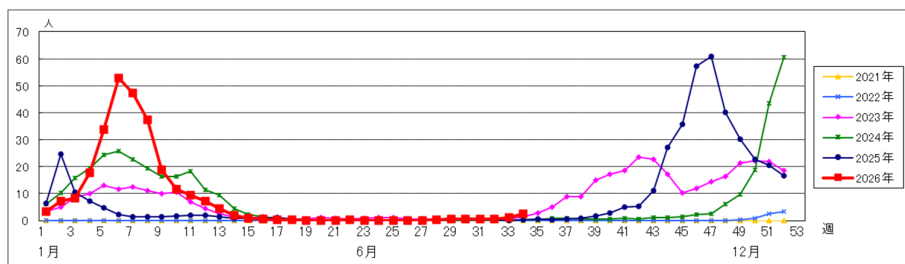
## ◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39医療機関に変更されました。

| 報告週対応表    |             |
|-----------|-------------|
| 2026年第30週 | 7月20日～7月26日 |
| 第31週      | 7月27日～8月2日  |
| 第32週      | 8月3日～8月9日   |
| 第33週      | 8月10日～8月16日 |
| 第34週      | 8月17日～8月23日 |

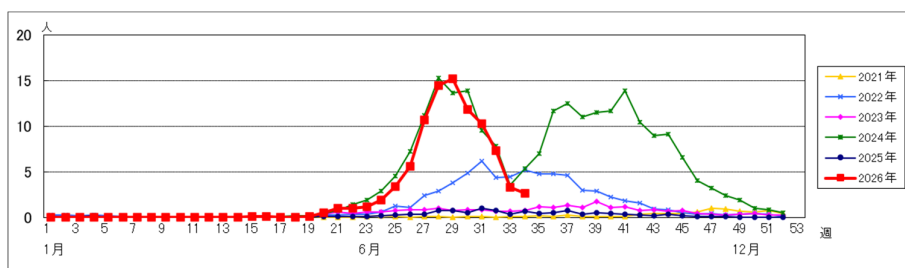
### 1 インフルエンザ

2026年第33週(8月10日～8月16日)に1.17となり、流行期入りの目安となる1.00を超えました。第34週は2.53で、幅広い年齢層で患者が報告されています。



### 2 手足口病

2026年は第26週(6月22日～6月28日)に5.56となり、2024年以来の流行警報レベルとなりました。第29週(7月13日～7月19日)には15.18まで上昇しましたが、以後減少傾向で、第34週は2.62です。



### 3 性感染症(2026年7月)

|            |        |        |               |        |       |
|------------|--------|--------|---------------|--------|-------|
| 性器クラミジア感染症 | 男性:36件 | 女性:25件 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 男性:26件 | 女性:9件 |
| 尖圭コンジローマ   | 男性:33件 | 女性:0件  | 淋菌感染症         | 男性:17件 | 女性:5件 |

### 4 基幹定点週報

|                   | 第30週 | 第31週 | 第32週 | 第33週 | 第34週 |
|-------------------|------|------|------|------|------|
| 細菌性髄膜炎            | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 無菌性髄膜炎            | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.50 | 0.25 |
| マイコプラズマ肺炎         | 0.25 | 0.50 | 1.25 | 1.00 | 0.00 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く)  | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.25 |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

### 5 基幹定点月報(2026年7月)

|                   |     |                |    |
|-------------------|-----|----------------|----|
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 15件 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 0件 |
|-------------------|-----|----------------|----|

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5 か所、ARI 定点:4 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院)定点:4 か所の計 14 か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI 定点と ARI 定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2026 年第 30 週～第 34 週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点 86 件、小児科定点 3 件、定点外医療機関からは 3 件でした。

8 月 26 日現在、表に示した各種ウイルスの総数 78 件(うち分離総数 4 件)が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2026 年第 30 週～第 34 週)

| 診断名         | 検出・分離ウイルス                  | 総数 | うち分離数 |
|-------------|----------------------------|----|-------|
| ARI         | ライノウイルス                    | 14 |       |
|             | ライノウイルスまたはエンテロウイルス         | 6  |       |
|             | パライフルエンザウイルス 1型            | 6  |       |
|             | パライフルエンザウイルス 2型            | 1  |       |
|             | パライフルエンザウイルス 3型            | 6  |       |
|             | パライフルエンザウイルス 4型            | 2  |       |
|             | ヒトメタニューモウイルス               | 15 |       |
|             | コクサッキーウイルス A6型             | 4  |       |
|             | アデノウイルス 型未同定               | 3  |       |
|             | アデノウイルス 2型                 | 2  | 2     |
|             | SARS コロナウイルス 2 (新型コロナウイルス) | 4  |       |
|             | インフルエンザウイルス A型             | 1  |       |
|             | インフルエンザウイルス AH1pdm09       | 2  | 2     |
|             | エンテロウイルスD68型               | 1  |       |
|             | RS ウイルス                    | 7  |       |
| 手足口病        | コクサッキーウイルス A6型             | 2  |       |
| ヘルパンギーナ     | パライフルエンザウイルス 3型            | 1  |       |
| けいれん重積型急性脳炎 | パレコウイルス 1型                 | 1  |       |
| 合 計         |                            | 78 | 4     |

【 検査研究課 微生物(ウイルス医動物)担当 】

〈細菌検査〉

2026 年第 30 週～第 34 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 24 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 3 件、侵襲性肺炎球菌感染症 3 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 2 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からコクシジオイデス症(フォローアップ)2 件、ライム病疑い 4 件、細菌性髄膜炎疑い 2 件、レジオネラ症 3 件、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 件でした。病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1 件、感染性胃腸炎 1 件、「ARI 定点」から 6 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2026 年第 30 週～第 34 週)

| 菌株同定       |        | 項目                 | 検体数                | 血清型等                                                                                                                                                           |                                                                    |                                 |                   |
|------------|--------|--------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------|-------------------|
| 保健所        |        | 腸管出血性大腸菌感染症        | 24                 | O157:H7 VT2<br>O157:H7 VT1VT2<br>O157:H- VT2<br>O26:H11 VT1<br>O103:H2 VT1<br>O111:H- VT1<br>Og156:Hg25 VT1<br>Og150:Hg10 VT2<br>Og8:Hg19 VT2<br>OgUT:Hg20 VT2 | (6)<br>(2)<br>(1)<br>(4)<br>(4)<br>(2)<br>(2)<br>(1)<br>(1)<br>(1) |                                 |                   |
|            |        | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症     | 2                  | A群溶血性レンサ球菌 T型別不能<br>G群溶血性レンサ球菌                                                                                                                                 | (1)<br>(1)                                                         |                                 |                   |
|            |        | カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 | 3                  | <i>Escherichia coli</i><br><i>Enterobacter cloacae</i> complex                                                                                                 | (2)<br>(1)                                                         |                                 |                   |
|            |        | 侵襲性肺炎球菌感染症         | 3                  | <i>Streptococcus pneumoniae</i> 24F型<br><i>Streptococcus pneumoniae</i> 19A型                                                                                   | (2)<br>(1)                                                         |                                 |                   |
|            |        | 侵襲性インフルエンザ菌感染症     | 2                  | <i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能                                                                                                                             | (2)                                                                |                                 |                   |
|            |        |                    |                    |                                                                                                                                                                |                                                                    |                                 |                   |
|            | 分離同定   |                    | 項目                 | 検体数                                                                                                                                                            | 材料                                                                 | 同定、血清型                          |                   |
|            | 保健所    |                    | コクシジオイデス症(フォローアップ) | 2                                                                                                                                                              | 血清                                                                 | 抗コクシジオイデス抗体価 陰性                 | (2)               |
|            |        |                    | ライム病疑い             | 4                                                                                                                                                              | 痂皮<br>血清<br>全血                                                     | ライム病ボレリア、回帰熱ボレリア<br>PCR 陰性      | (2)<br>(1)<br>(1) |
|            |        |                    | 細菌性髄膜炎疑い           | 2                                                                                                                                                              | 髄液<br>血清                                                           | 16S rRNA 遺伝子 陰性                 | (1)<br>(1)        |
|            |        | レジオネラ症             | 3                  | 喀痰                                                                                                                                                             | レジオネラ属菌 培養 陰性                                                      | (3)                             |                   |
|            |        | 侵襲性髄膜炎菌感染症         | 1                  | 髄液                                                                                                                                                             | 髄膜炎菌 培養 陰性                                                         | (1)                             |                   |
|            |        |                    |                    |                                                                                                                                                                |                                                                    |                                 |                   |
| 小児科サーベイランス |        | 材料                 | 診断名                | 検体数                                                                                                                                                            | 同定、血清型等                                                            |                                 |                   |
| 小児科定点      | 咽頭ぬぐい液 | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎      | 1                  | A群溶血性レンサ球菌 T6型                                                                                                                                                 |                                                                    | (1)                             |                   |
|            | 直腸ぬぐい液 | 感染性胃腸炎             | 1                  | 胃腸炎起因菌 培養 陰性                                                                                                                                                   |                                                                    | (1)                             |                   |
|            |        |                    |                    |                                                                                                                                                                |                                                                    |                                 |                   |
| ARIサーベイランス |        | 材料                 | 診断名                | 検体数                                                                                                                                                            | 同定、血清型等                                                            |                                 |                   |
| ARI定点      | 咽頭ぬぐい液 | ARI                | 6                  | A群溶血性レンサ球菌 培養陰性<br>肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性<br>肺炎マイコプラズマ遺伝子 陽性<br>百日咳菌遺伝子 陰性<br>百日咳菌 培養陰性                                                                               |                                                                    | (5)<br>(5)<br>(1)<br>(6)<br>(5) |                   |

【 検査研究課 微生物(細菌)担当 】